

弁天沼

弁天沼は、磐梯山が 1888 年に噴火し、地滑りによって近くの川がせき止められた結果作られた、約 30 の浅くカラフルな沼と湿地が集まった五色沼の中で 2 つ目に大きい沼です。

青、緑、乳白色の弁天沼は、五色沼で最も酸性度が強い沼の 1 つであるため、冬には凍りやすくなります。弁天沼の底では、池沼で育つコケの一種であるウカミカマゴケが厚いマットを形成しています。

弁天沼の名前は、仏教で水と芸術の女神である「弁天」にちなんで名付けられました。弁天は、室町時代（1136 年-1573 年）から崇拝されてきた日本の七福神の中の 1 人でもあります。